

# 映像作品『骨(フニ)を還せ 魂(マブイ)を還せ』

制作・琉球遺骨返還請求訴訟全国連絡会

琉球遺骨返還請求訴訟で、裁判官の現地検証に替わる映像を制作してほしいとのリクエストが私に届いたのは半年前。裁判官から上映時間わずか10分と制限された法廷提出用の映像に何を表現するのか、原告、弁護団、支援者らによる会議で、かんかんがくがく議論した。

シナリオが完成し、撮影班はコロナに対し厳しい安全対策を施し琉球を訪れ、裁判の舞台となった現場を撮影し、関係者にインタビューした。那覇市からおよそ60キロ離れた本部半島の北東部、今帰仁村(なきじんそん)にある百按司墓(むむじやなばか)がどんな場所なのか。20世紀はじめ、京都帝国大学医学部の研究者、金関丈夫や三宅宗悦が琉球遺骨を「盗んだ」場所だ。百按司墓は、15世紀琉球王国をつくった第一尚氏の王族・貴族の墓で、琉球石灰岩の崖をうがった窪みにできた墓地だ。葬送儀礼は、家族ごとの本土と異なり、琉球では親族をいっしょに葬る。

この裁判の争点、「学問の暴力」「植民地主義」「先住民」「国際人権法」、どれも映像表現がむづかしいことばかり。でも、京大側が裁判に提出した写真(総合博物館の空っぽのプラスチック製箱)に、今帰仁のエメラルドグリーンの海をオーバーラップした映像に、「遺骨に誰も手を合わせない。遺骨に誰も花を手向けない」とナレーションをつけた。こうして作成した映像は裁判所で上映された。口頭弁論のあと、傍聴席で映像をみた人から、遺骨の主や子孫へ思いを馳せると「思わず涙がでた」「あんなところに遺骨は眠っているんだ」と、好意的な感想が寄せられた。映像は即物的ではない。その「空き箱」の写真を通して、人びとの心の震や当事者への想いを表現するのだと、再確認した。

いま、この裁判の原告・被告双方の主張、争点や背景を理解する一助となるロングヴァージョンのビデオ作品を編集 중이다。今帰仁村出身の芥川賞作家、目取真俊さんがこの裁判をどう考えるか、そのインタビューをしっかり盛り込んだ作品は近く完成する。音楽は宮城善光さんのご協力をいただいた。皆さま方に、ぜひ一度ご覧になっていただきたい。映像制作者の切なる願いだ。

(西村秀樹、映像作家)

## DVD 映像の内容

百按司墓とは／原告の主張／被告京都大学の主張／背景にある植民地主義／目取真俊さんインタビュー 他

**10月末完成予定！  
事前申し込み受付中！**

特別価格 2000円 (2500円) + 送料 180円

お申し込みフォーム QRコードから申し込みできます

<https://forms.gle/GDP9ePiHAtCDnsb9A>



ゆうちょ銀行 (振込用紙での注文もできます)

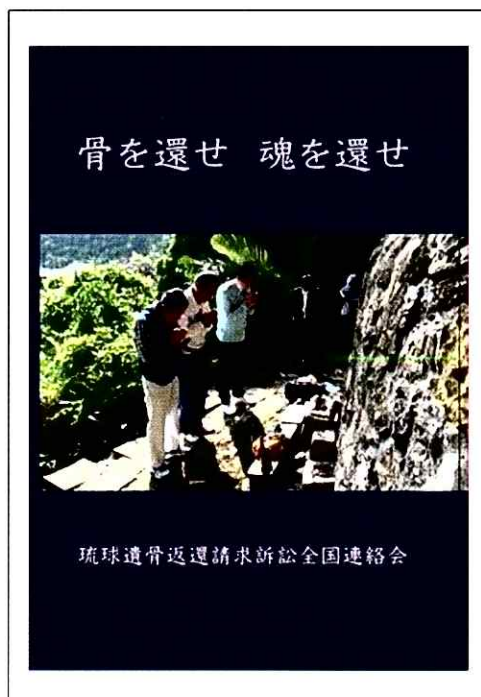
口座番号 00920-1-237915

口座名称 琉球遺骨返還請求訴訟全国連絡会

他行からの振込の場合

〇九九 当座 0237915

制作・琉球遺骨返還請求訴訟全国連絡会



大阪市北区西天満3丁目14-16 たんぽぽ総合法律事務所気付